

平成30年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名:循環型社会に貢献できる産業人材育成事業(迫桜高校)

事業実施期間:平成28年度から平成30年度

担当課室名:高校教育課

担当班名 キャリア教育班 TEL: 3625

e-mail ko-kogyo@pref.miyagi.lg.jp

1 事業の目的

一般的に流通しているプランターをプラスチック製から段ボール製に変えることで、使用・劣化後に産業廃棄物とせず、古紙再生や耕地へすき込むなどの処理を行えることを活用した環境保全活動及び環境教育を実践的に研究し、循環型社会の形成に寄与できる人材の育成を行う。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

『ai.shellを使った環境教育の実践』

プラスチック製プランターの耐用年数は最長でも5年であり、設置場所や天候・気温によって劣化速度は異なるものの、最終的には産業廃棄物(廃プラスチック)になる。そこで、廃棄時に再生処理が可能な段ボール製プランターを使用して、地域の緑化活動等に取り組むこととした。

- 地元公共機関(総合支所・駅・警察署・病院等)に設置しているプランターをプラスチック製プランターから段ボール製に置き換えた。
- 露地栽培が行えない冬期に段ボール製プランターを使用して葉物野菜やハーブの栽培を行い、また、水稻育苗ハウスによる土地生産性を高める研究を行った。
- 「みやぎ産業教育フェア」において、段ボール製プランターの取り組み発表を行い、地域の方々に環境教育の取り組みを伝えた。

3 当該年度の実施事業の成果

- プランター設置による緑化活動で使用するプランターのうち、全体の30%にあたる57個をプラスチック製から段ボール製に置き換えた。
- 校舎前、文化祭、みやぎ産業教育フェア、シクラメン即売会などのイベント等において、段ボール製プランターを展示・発表することで、地域の方々に環境教育に対する取り組みを伝えることができた。
- プラスチック製と段ボール製のプランターの植物の生育状況を比較した。
- 地域での環境に関する活動を通し、将来の地球環境に配慮した産業活動に関与できる人材の育成が図られた。

4 今後の展開

- 事業を通し、地域社会や各種団体に段ボール製プランターの有用性を認識してもらい、プラスチック製から段ボール製のプランターに置き換えを推奨し、地域全体と連携した環境保全活動を推進する。
- 使用後の段ボール製プランターの処理を活用して、実践的な環境教育を行うことで、循環型社会の形成に寄与できる人材の育成を推奨する。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果を示す指標の数値

(指標: 関連授業時数)

単位: 時間

平成28年度	平成29年度	平成30年度		
87	115	238		

6 事業費の推移

単位: 千円

平成28年度	平成29年度	平成30年度		
867	663	730		